ファーウェイ・ジャパン

サステナビリティ・レター

―私たちができること―

2016 冬

震災の学びを次の世代へ

雑誌「オルタナ」に
ファーウェイ・ジャパンの
取り組みが掲載されました

次世代のリーダー育成につなげる
東北から熊本、熊本から鳥取へ

タブレットを活用し、クロスステッチ刺繍
「2016 サステナビリティ・ブック」発行

「チャリティー・リレーマラソン東京」で。東京の足立区立栗島中学校の生徒は、復興支援の活動テーマやどうすれば募金が集まるか、中学生同士で話し合った

震災の学びを次の世代へ

中学生による復興支援活動「チャリティー・リレーマラソン東京2016」が7月に開かれた。主催する日本フィランソロピー協会（東京・千代田）は、マラソンだけでなく、5月から12月にわたる約8カ月のプログラムを通し、復興を担う次世代リーダーを育成することを目指している。東日本大震災から6年を迎えようとするなか、復興支援をCSRの柱に掲げるファーウェイ・ジャパンは、継続的な支援を続けている。

お台場で、道行く人に募金を呼びかける熊本の高森町立高森中学校と東京の江東区立深川第一中学校の生徒たち

「海から離れていたため、学校の被害は大きくありませんでした。しかし、まだ仮設住宅には人が住み、大変な思いをしている人がいます。復興を進めるためには皆さんの協力が必要です」

岩手県大船渡市立日頃市（ひころいち）中学校の生徒は、自分たちで制作したビデオメッセージで訴える。大船渡市は、海、山に恵まれ、山菜やサンマ、ホタテなど、食べ物も豊富だ。だが、2011年3月11日に発生した東日本大震災で甚大な被害を受けた。

「学校の被害は少なかったものの、親の職場が被災したり、親類が亡くなったりした生徒がいた。それぞれが辛い思いをしたが、子どもたちは大船渡が大好きで、たくさんの人に遊びに来てほしいと思っている」。同校の村上洋子校長は語る。

■次世代のリーダー育成につなげる

「チャリティー・リレーマラソン東京」は、中学生による復興支援活動。日本フィランソロピー協会は、同プログラムを通じて次世代リーダーの育成を目指す。2016年は岩手から2校、宮城から3校、福島から1校、東京から10校、熊本から2校、合計119人の中学生が参加。中学生による募金活動と企業からの協賛金などを合わせて、寄付総額は400万円に上った。東北と熊本の8校に50万円ずつ寄付される。

復興支援や次世代育成に力を入れるファーウェイ・ジャパンは2013年から「チャリティー・リレーマラソン東京」の支援を続けている。2016年は寄付金やWi-Fiルーターを提供したほか、社員5人が当日ボランティアに参加した。

「チャリティー・リレーマラソン東京」では、東京の中学校が募金活動を行い、東北の中学校は地域の声を聞きながら寄付金の使い方を決めていく。東北では、被災地の現状をビデオメッセージにまとめ、東京の生徒らに共有し募金活動の参考にしてもらう。

日頃市中学校は、活動テーマとして「ATG（明るく、楽しく、元気よく）を大船渡に」を掲げた。寄付された50万円は、大船渡市の花である椿を赤ちゃんにプレゼントする「椿の里づくり」や、五葉山（ごようさん）の山小屋づくりなどに充てるという。

「五葉山は、昔から子どもたちが眺めている山。ゴミ拾いや、山頂に薪を届ける活動を行ったとき、管理人の方から山小屋を建て替えたいという話を聞いた。休憩場所やもしもの時の避難場所として支援することを決めた」（村上校長）

中学生は議論をしながら、活動テーマを決めていく

■東北と東京の中学生が一緒に募金活動

東京の参加校は、7月のマラソンまでに学校内や地域イベント、駅前などで募金を呼びかける。2回目の参加となった墨田区立両国中学校は、2015年に設立されたボランティア部の活動の一環として取り組んでいる。

「世界に羽ばたく両中生」を教育目標に掲げる同校は「地域だけでなく、日本や世界に目を向け、多くの人の力になりたい」という思いで、「チャリティー・リレーマラソン東京」への参加を決めた。2016年は募金活動に約20人、マラソンに8人が参加し、12万円を集めたという。約2週間、朝と夕方に清澄通りに立ち、募金を呼びかけた。

ボランティア部の顧問を務める輪湖みちよ先生は、「声出しの練習をしたり、反省会をしたり、みんなで考えながら活動を進めてきた。だんだん主体的な行動が目立ってきた」と話す。4月に発生した熊本地震の際には、ボランティア部以外の生徒が自ら募金活動を開始し、35万円を集めた。チャリティー・リレーマラソンで募金活動を行う姿を見て、触発されたという。輪湖先生は「中学生の力はすごい。人の心を動かし、地域を変えていく」と力を込める。

東北の中学校も2015年からマラソン前日に募金活動に参加している。東北の中学校から、自分たちも募金活動に参加したいという希望があって実現した。日頃市中学校の村上校長は、「慣れない東京に来て、募金活動も初めて。はじめは全く声が出ない。東京の中学生の頑張りに感激していた」と振り返る。

■東北から熊本、熊本から鳥取へ

2016年は、熊本地震を受けて急きょ熊本の中学校も参加。日頃市中学校の生徒は、自主的に熊本支援の寄付金を集めたという。マラソン後に行われた贈呈式で、寄付金を受け取った高森中学校の生徒は「熊本地震を経験して、東北がいかに大変だったかが分かった。今も復興が完全に進んでいない中で、寄付を集めてもらえて感動した」と語った。

高森町立高森東中学校の本田雅隆教頭は、「チャリティー・リレーマラソンに参加して、生徒は明らかに変わった。ふるさとを見つめ直し、地域に貢献したいという思いが芽生えた」と話す。生徒は10月に発生した鳥取県中部地震への支援活動にも積極的に参加していたという。

「子どもたちは辛い経験をして、同じような思いを味わってほしくないと思っている。東北の子どもたちの思いが全国に広がってほしい」。日頃市中学校の村上校長は語る。

「チャリティー・リレーマラソン東京」を通じて、震災の学びは、地域や世代を超えて引き継がれていくだろう。ファーウェイ・ジャパンは、サステナビリティのビジョン「つなげよう、未来に」のもと、被災地に寄り添いながら、支援を続けていく。

7月17日のマラソン当日は、日比谷国際ビル前から築地本願寺まで約32キロを約3キロ1区間として駅伝方式で走った

TOPICS

タブレットを活用し、クロスステッチ刺繍

宮城県東松島市内の子育て中の主婦が中心となって活動する「東松島ステッチガールズ」。2013年2月に結成され、クロスステッチ刺繍作品の制作、販売を通じて町興しを行う。一般社団法人東松島みらいとし機構（HOPE、宮城県東松島市）の復興支援プロジェクトの一つで、被災地の女性に生きがいと雇用を創出し、コミュニティーの再生を目指す。

ファーウェイ・ジャパンは、ICTの活用で復興を後押ししたいという思いから、2015年2月にタブレット端末25台を寄贈。製作者は自宅で一人で作業することも多く、寄贈されて以来、刺繍の見本を写真に撮って参考にしたり、製作過程を記録して情報共有したりするのに役立てている。視力が弱い人にとっては、写真を拡大して確認できるので、実物よりも分かりやすい場合もあるという。HOPEの芳賀朋子さんは、「最近はハンカチや小物などオリジナル商品も増えてきた。タブレットを利用して、デザイン案の参考にする人もいる。商品開発にも力を入れていきたい」と意気込む。

イニシャル刺繍入り今治タオルハンカチをはじめ、オリジナル商品は「東松島ステッチガールズ」のウェブサイトから購入できる

ファーウェイ・ジャパンのCSR活動報告

◆「震災メモリアルパーク中の浜」で育樹活動

ファーウェイ・ジャパンは、復興支援活動の一環として、2014年から「震災メモリアルパーク中の浜」（岩手県宮古市）の森づくりに、同公園の植樹・育樹活動を行う経団連自然保護協議会の会員企業として参加している。同公園では、震災の記憶を次世代へ伝える拠点として、被害を受けたトイレや炊事棟、防潮堤のオブジェなどを震災遺構として保存している。

同公園には、岩手県産・地域産の苗木20種400本が植樹されたが、木の健全な育成には、除草や苗木の補強といった手入れが欠かせない。そこで、同協議会は植樹の管理作業を年2回実施し、ファーウェイ・ジャパンからも毎回社員が参加している。2016年は9月30日から10月1日に実施された。

当日は、地域の方と一緒に草刈りなどを行った。このほか、育成中の森を拠点に崎山小学校の児童に環境教育、田老での震災教育の現場視察などが行われた。

「震災メモリアルパーク中の浜」で管理作業を行った

◆「2016 サステナビリティ・ブック」発行

ファーウェイ・ジャパンは2016年10月、「2016 サステナビリティ・ブック」を発行した。本社の「2015 サステナビリティ・レポート」の抄訳に日本の事例を加えたもの。2015年のグローバルな取り組みのほか、日本での活動がまとめられている。

ファーウェイのサステナビリティ戦略は、「デジタル・デバイドの解消」を筆頭に、「安定性・安全性の高いネットワーク運用のサポート」「環境保護」「相互に利益のある発展」を掲げる。売上高が7兆円を超え、事業が成長するなかで、比例して事業や製品が社会に与える影響も大きくなってきた。そこで、ファーウェイは2015年に「サステナビリティ成熟度評価」を改良し、サステナビリティ管理を強化した。さらに、サステナビリティ目標達成のために、すべてのサプライヤに「サプライヤ・サステナビリティ協定」に署名することを求めている。同ブックでは、サプライヤ監査で発見された問題を公開するなど、積極的な情報開示を進めている。同ブックは、ウェブサイトで閲覧できる。

「2016 サステナビリティ・ブック」日本語版
www.huawei.com/minisite/jp/csr2015/

グローバルな取り組みのほか、日本での事例をまとめた「2016 サステナビリティ・ブック」

ファーウェイ・ジャパン公式
フェイスブックページはこちら

About HUAWEI

ファーウェイ（中国語表記：華為技術、英語表記：Huawei）は、1987年に中国・深圳（シンセン）に設立された従業員持株制による民間企業で、世界有数のICTソリューション・プロバイダー。ファーウェイは通信事業者、企業、消費者の皆様に最大の価値をもたらすべく、競争力の高い製品やサービスを170カ国以上で提供し、世界人口の3分の1にもおよぶ人々のICTソリューション・ニーズに応えている。

華為技術日本株式会社／渉外・CSR部
ファーウェイ・ジャパン
〒100-0004　東京都千代田区大手町1-5-1　大手町ファーストスクエア ウエストタワー12階
代表電話番号：03-6266-8008　代表FAX番号：03-6266-8000
www.huawei.com/jp/sustainability

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C019355
VEGETABLE OIL INK

©華為技術日本株式会社
本誌掲載の写真・記事などのコンテンツにおける著作権は、弊社または弊社が利用許諾を受けた者に帰属します。弊社の承諾なしに、無断転載および転写を禁じます。

2016年12月発行